

災害に備える ～もしものときの情報収集～



「平成21年7月中国・九州北部豪雨」から1年。九州北部地方を襲った豪雨が町内各地に甚大な被害をもたらしたことは、記憶に新しいところです。このような災害が起こったとき、重要になるのは避難や災害状況などの情報です。素早い情報収集は、災害による被害を最小限に食い止めることに役立ちます。これから梅雨終盤や台風シーズンを迎えるにあたり、豪雨や台風など、起こりうる災害への備えとして、情報の大切さを再度確認してみましょう。

- ①
- ②
- ③
- ④

① 土砂崩れで1人が死亡した福智町上弁城地区の災害現場。
 ② 役場本庁の放送室から、防災無線が放送されます。
 ③ 非常時の情報収集に威力を発揮するラジオ。
 ④ メールや携帯 Web で、最新の情報が入手できる携帯電話。

気象情報活用で災害の前ぶれをいち早くキャッチ

我が国では、台風や低気圧、前線などによる大雨、大雪、暴風、高波、高潮などによって毎年のように風水害、土砂災害などが発生しています。最近の傾向として、夏の短時間強雨の発生回数の増加、局地的な集中豪雨による浸水被害や土砂災害、中小河川の急な増水による水難事故など、

風水害による被害が目立っています。このような災害を防止・軽減するために、福智町が警報や注意報、気象情報などの防災気象情報を発表し、注意や警戒を呼びかけています。災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報が「注意報」で、「大雨注意報」「洪水注意報」「濃霧注意報」「雷注意報」「乾燥注意報」「強風注意報」「大雪注意報」「風雪注意報」なだれ注意報」

「着雪注意報」「霜注意報」「低温注意報」の発表基準が福智町に設けられています。さらに重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報が「警報」です。大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表する「大雨警報」、大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表する「洪水警報」、暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表する

生するおそれがあると予想したときに発表される「暴風警報」や、「大雪警報」「暴風雪警報」の発表基準が福智町に設けられています。

そのほかにも、大雨警報発表中に数時間に1回程度しか起こらないような1時間に100mm前後の猛烈な雨が観測された場合に気象台から発表される情報「記録的短時間大雨情報」や、大雨による土砂災害発生危険度が高まったとき、福岡県と気象台が共同で発表する「土砂災害警戒情報」などがあります。

これらの防災気象情報は福岡県を通じて福智町へ、また、報道機関等を通じてみなさんのもとへ届けられています。早めの防災対応に活用しましょう。

町が発令する3段階の避難情報

町が発令する避難情報には、住民の皆さんの避難準備を促す「避難準備情報」と避難を促す「避難勧告」、人的被害の発生する危険性が高いと判断されたときに発令する「避難指示」の3つがあります。防災無線等で町から避難情報が出た場合には、速やかに身の安全を確保してください。また、避難勧告などが出ていなくても、身の回りに危険を感じたら自主的に避難することが大切です。いつ襲われるかわからないからこそ、常に防災の意識をもった行動を心がけましょう。なお、福智町の避難所は、次のページに掲載しています。いざというときは、最寄りの施設へ避難を。

各種防災気象情報のタイミングの例

大雨が予想された場合の各種防災気象情報の内容とタイミングの一例を示します。必ずこのような順序で発表されるとは限りませんが、どんなときにどんな情報が発表されるのかをイメージするのにご活用ください。



大雨などの気象警報・注意報を市町村ごとに発表

気象庁は5月27日から、大雨や洪水などの気象警報や注意報の発表対象区域を、従来の地域別から市町村別に変更。今まで「筑豊地方」だったものが「福智町」となり、より身近で詳細な情報となりました。また、大雨警報を発表する際には、特に警戒が必要な災害を、「大雨警報（土砂災害）」、「大雨警報（浸水害）」のようにかっこ書きで表示され、より分かりやすくなりました。※NTT177やテレビおよびラジオなどで放送される際、読み上げ可能な文章の範囲内で伝えなければならないことや画面の文字数の制限により、これまでどおりの地域で放送される場合があります。